



2023年6月6日

マツダ、ルマン 24 時間レース 100 周年大会において特別展示 —日本政府観光局、トヨタ自動車株式会社と「Japan. Endless Discovery.」を共同開催—

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、フランスのルマン サルトサーキットで開催されるルマン 24 時間レース(以下、ルマン)100 周年大会(第 91 回大会)において、日本政府観光局(以下、JNTO)およびトヨタ自動車株式会社(以下、トヨタ)/TOYOTA GAZOO Racing とともにテーマ展示「Japan. Endless Discovery.」を、6 月 6 日から 11 日(現地時間)で開催します。



「MAZDA MX-30 e-SKYACTIV R-EV」(欧州仕様／参考展示車)

テーマ展示「Japan. Endless Discovery.」は、訪日インバウンド観光の促進を図るJNTOの呼びかけを受けて、1991年のルマンにおいて日本車として初めて総合優勝したマツダと、現在日本の自動車メーカーとして唯一ルマンに参戦し5連覇中のトヨタが、ルマンへの感謝を込めて開催するものです。

本展示では、ルマンに挑戦するマツダおよびトヨタを、モータースポーツを描いた漫画「capeta(カペタ)」の作者である曾田正人(そだ・まさひと)氏が描き下ろし作品として漫画化、日本の風景や文化と組み合わせた「ル・マンガ」として掲出しています。

ルマン 100 周年大会に際して曾田氏は、次のように述べています。「物心ついたころからレースファンの自分にとって、毎年 6 月は特別です。これまでの名シーンを思い返し、ペンにリスペクトを込めて作画する時間は楽しいものでした。偉大なるル・マン 24 時間レース 100 周年。日本のメーカーとして初めてル・マンで優勝されたマツダ様。ル・マンを始め様々なモータースポーツで勝利され世界に貢献されている TOYOTA GAZOO Racing 様。そして我々に感動を与えてくれるレーシングドライバーの皆様。ありがとうございます。日本のものづくりと諦めずにチャレンジする姿勢には、特に漫画家になってから大いに学ばせていただいています。カーボンニュートラル社会の実現、未来への新たな挑戦。この過酷なレースからきっと世界が開けると信じています。今年も全力で応援いたします。」

また、展示スペースでは、電動化技術や水素エネルギー、カーボンニュートラル燃料の活用など、多様なカーボンニュートラル技術に挑戦する両社のモータースポーツ活動を紹介します。これとともにマツダは、最新の環境技術を採用したクルマとして、ロータリーエンジンを発電機として使用する PHEV「MAZDA MX-30 e-SKYACTIV R-EV(欧州仕様)」を参考展示しています。

「Japan. Endless Discovery.」のオープニング式典において、マツダの松本浩幸(まつもと・ひろゆき)常務執行役員は次のように述べています。「1991年のルマン総合優勝は今のマツダブランドの礎であり、長年のルマンへの挑戦を通じて培った『飽くなき挑戦』の精神は、すべてのマツダ社員の共通した価値観となっています。今回の展示では、カーボンニュートラルを実現する上で多様な選択肢があるというビジョンを、トヨタ様と一緒に表現しました。多くのお客様にご覧いただければ幸いです。」

マツダは、2050年カーボンニュートラル実現に挑戦するとともに、「ひと中心」の思想のもと人を研究し続け、人々の日常や移動することの感動体験を創造し、誰もが生き活きと暮らす「愉しさ」と「生きる歓び」を届けていくことを目指してまいります。

以上